

第14期(2012年3月期) 第2四半期決算のご説明

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(大証JASDAQスタンダード, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

この資料での数値は、特に指定がない限りすべて2011年9月末現在のものです。

| | | | |
|----|-----------------|-----|----|
| 1. | 本資料における記載数値について | ・・・ | 3 |
| 2. | 経営環境 | ・・・ | 4 |
| 3. | 第14期第2四半期決算概要 | ・・・ | 6 |
| 4. | Topics | ・・・ | 10 |
| 5. | 投資活動の状況 | ・・・ | 11 |

【参考】会社概要

1.本資料における記載数値について

当社では連結での決算を行っておりますが、当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の**当社持分のみを連結した財務数値を記載**しております。

【連結の対象となる投資事業組合】

連結子会社 ： 投資事業組合25組合
出資金総額 ： 29,052百万円
 (うち、外部出資者の持分 25,136百万円)

【投資事業組合を連結した場合の影響】

投資事業組合を連結することにより、外部出資者の組合持分が、当社の連結貸借対照表、連結損益計算書に含まれます。

○連結貸借対照表

- ・自己資本比率が低下します。外部出資者の組合持分が、当社の「総資産」に含まれるためです。

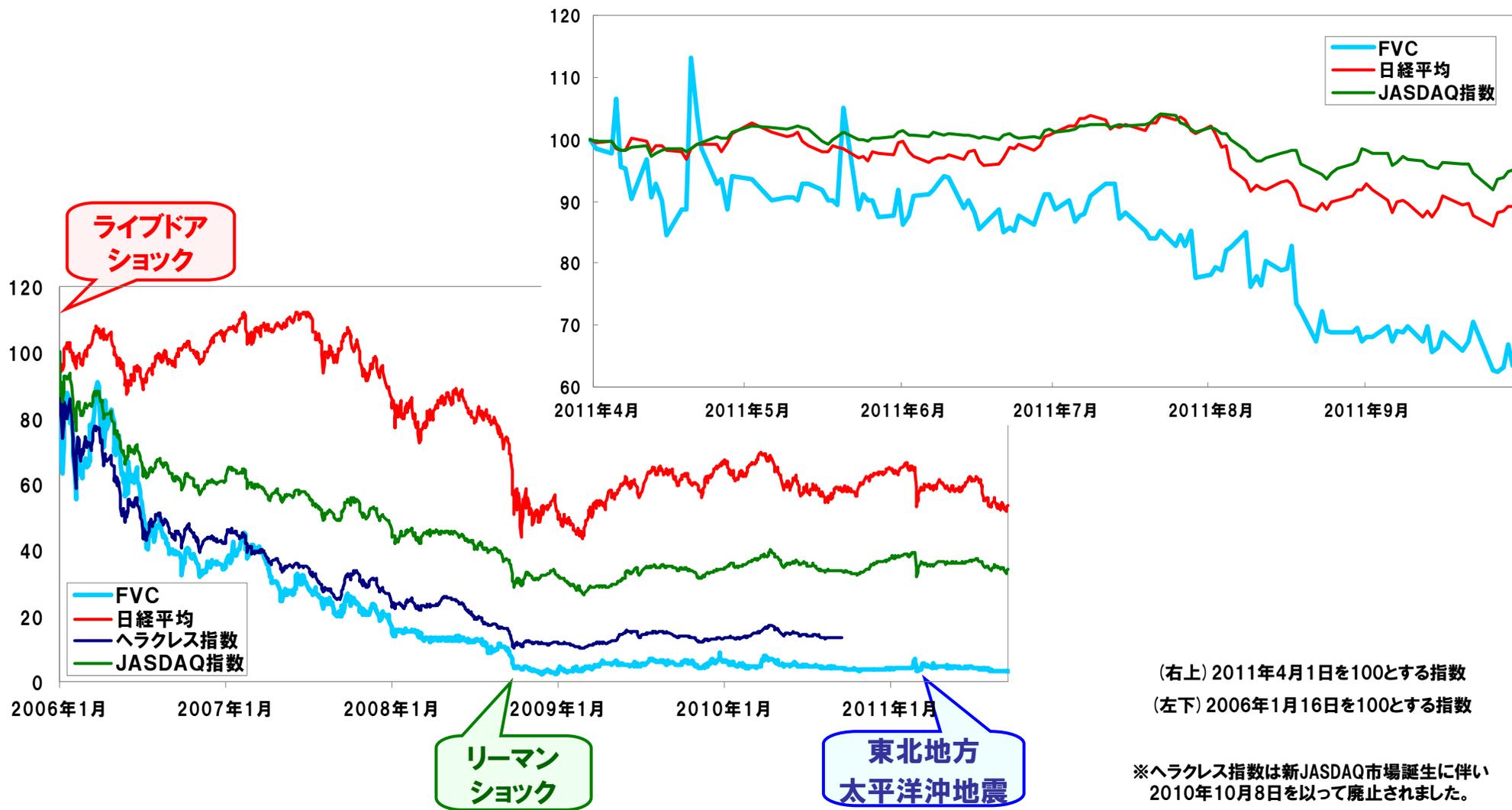
○連結損益計算書

- ・外部出資者の組合持分が売上や売上原価に含まれるため、損益にも外部出資者の組合持分が含まれます。外部出資者の組合持分である損益は、最終的に「少数株主利益」又は「少数株主損失」として控除されます。
- ・投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去されます。

※表示単位未満の数値処理の影響により、合計額が一致しない等のずれが一部に生じております。

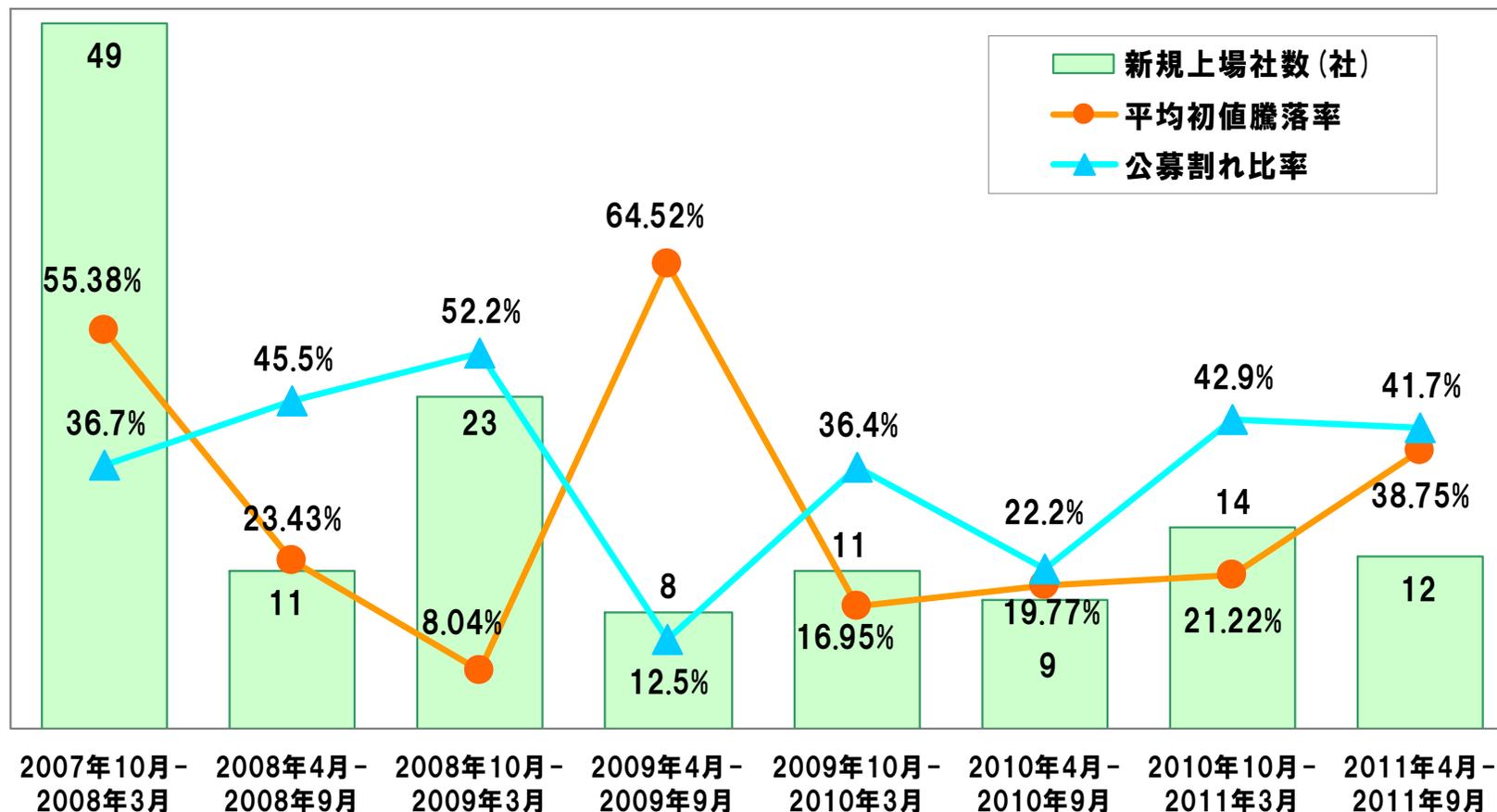
2.1.株式市場の状況

2006年以来の新興市場低迷はなお続く 市況の悪化を増幅したような株価推移となった



2.2.新規上場市場の状況

震災後の混乱はあったものの、2009年、2010年の水準を上回ることはほぼ確実に、
初値騰落率、新規上場社数とも回復の兆し



※初値騰落率

: $\{ (\text{初値} - \text{公募価格}) / \text{公募価格} \} \times 100 (\%)$

公募割れ比率

: 新規上場企業のうち、初値が公募価格を下回った企業の比率

3.1.第14期第2四半期決算(2011年9月)

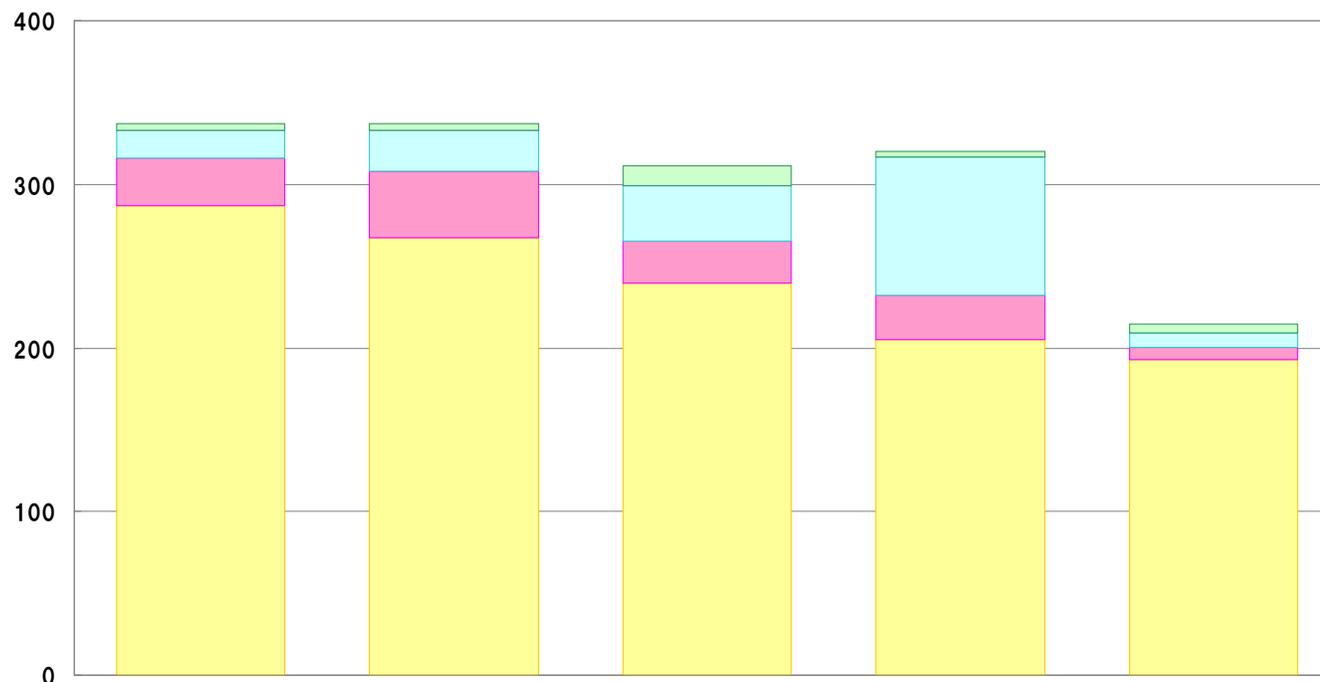
減収ながら前年同期比では損益が改善、かたや投資損益が改善できず引き続き赤字計上となった
 新株式の発行により前期末比で自己資本比率が改善

| | 第13期第2四半期 | 第14期第2四半期 | 第13期通期 |
|----------|---------------|---------------|---------------|
| 単位:百万円 | 2010/4-2010/9 | 2011/4-2011/9 | 2010/4-2011/3 |
| 売上高 | 311 | 214 | 631 |
| 営業損失(△) | △113 | △35 | △271 |
| 経常損失(△) | △131 | △52 | △307 |
| 当期純損失(△) | △149 | △57 | △333 |
| 純資産 | 275 | 175 | 101 |
| 総資産 | 1,619 | 1,389 | 1,406 |
| 自己資本比率 | 16.4% | 11.4% | 6.2% |

3.2.売上高の内訳・経年比較

投資事業組合管理業務による売上高の減少、営業投資有価証券の売却高縮小が響き、前年同期及び前期比とも減収となった

(単位:百万円)



単位:千円

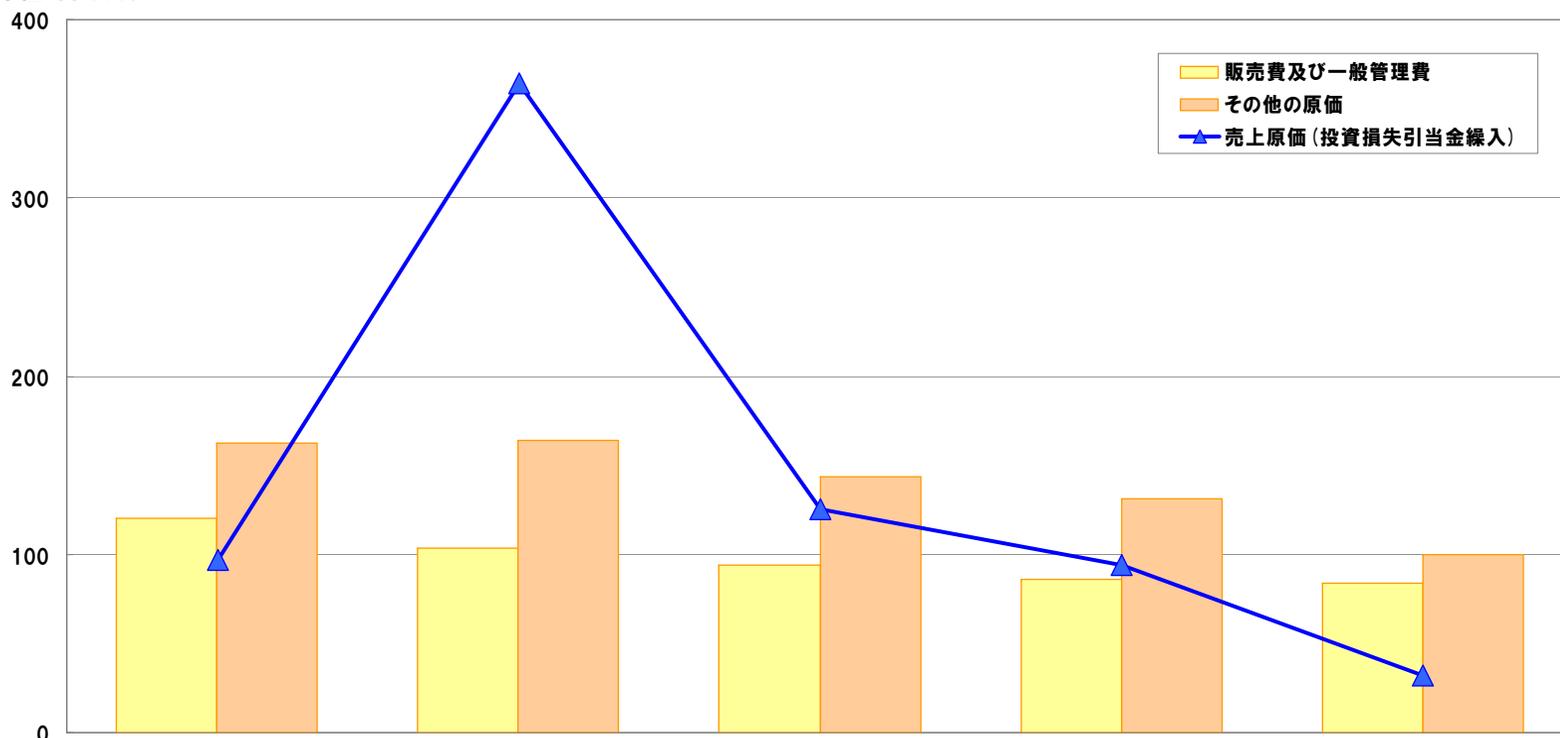
| | 第12期1-2Q 2009/4-2009/9 | 第12期3-4Q 2009/10-2010/3 | 第13期1-2Q 2010/4-2010/9 | 第13期3-4Q 2010/10-2011/3 | 第14期1-2Q 2011/4-2011/9 | 第14期1-2Q構成比 |
|-------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|-------------|
| 投資事業組合管理業務 | 287,259 | 267,205 | 239,344 | 205,176 | 192,562 | 89.7% |
| 営業投資有価証券売上高 | 17,254 | 24,546 | 33,545 | 84,119 | 8,535 | 4.0% |
| コンサルティング業務 | 28,815 | 40,964 | 26,229 | 27,125 | 7,752 | 3.6% |
| その他 | 4,002 | 4,582 | 12,334 | 3,865 | 5,731 | 2.7% |
| 計 | 337,331 | 337,298 | 311,454 | 320,287 | 214,582 | 100.0% |

3.3. 経費削減の状況

厳しい経営環境に応じて経費削減を推進

投資損失引当金新規繰入はピークアウトが鮮明に

(単位:百万円)



単位:千円

| | 第12期1-2Q 2009/4-2009/9 | 第12期3-4Q 2009/10-2010/3 | 第13期1-2Q 2010/4-2010/9 | 第13期3-4Q 2010/10-2011/3 | 第14期1-2Q 2011/4-2011/9 |
|------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 販売費及び一般管理費 | 120,242 | 103,661 | 94,243 | 86,166 | 83,499 |
| その他の原価 | 162,200 | 163,825 | 143,195 | 131,423 | 99,704 |
| 投資損失引当金繰入額 | 96,820 | 364,255 | 125,146 | 93,895 | 32,203 |

※その他の原価 : 売上原価として計上する営業部門における活動経費

3.4. 営業投資有価証券にかかる損益の詳細 (第14期第2四半期)

投資損失引当金の新規繰入額は減少傾向にあるものの、なおも投資損益に影響を落とす

(単位:千円)

| | 上場 有価証券 | 未上場 有価証券 | 減損 | 投資損失引当金 新規繰入 | 合計 |
|-----------------------|------------|-------------|---------|-----------------|----------|
| ①営業投資有価証券 売却高 ※1 | 410 | 7,889 | - | - | 8,300 |
| ②売却原価 | 99 | 110,027 | 35,724 | - | 145,852 |
| ③売買損益 (①-②) | 310 | △102,138 | △35,724 | - | △137,552 |
| ④投資損失引当金 繰入額(△戻入額) | - | △101,619 | △33,721 | 32,203 | △103,137 |
| 会計上損益 (③-④) | 310 | △518 | △2,003 | △32,203 | △34,414 |

※1 損益計算書上の「営業投資有価証券売上高」には、投資先企業株式・債券からの配当・利子を含むため、本表の数値とは異なります。

4.1.Topics

第三者割当増資を実施し、9月27日に総額128百万円払込

【株式会社カネカ】 東証1部上場の大手総合化学メーカー

事業領域が幅広く、対外アライアンスに積極姿勢を有する。
持株シェア18.0%で筆頭株主。当社投資先企業に対する技術面・営業面でのサポート充実を図る。

【古我 知史氏】 ウィルキャピタルマネジメント株式会社代表取締役

経営コンサルタントとしての豊富な実績と幅広いネットワークを有する。
独立系ベンチャーキャピタル同士の連携により、ハンズオン・ファンド企画における連携強化を図る。

【中村 亨氏】 株式会社コーポレート・アドバイザーズ代表取締役

幅広い顧客層に会計サービスを提供。ベンチャー企業への会計支援に強みを有する。
コンサルティングメニューの共同開発により相互に収益力の強化を図る。

第3四半期に入り2社が上場(見込)

10月24日JASDAQグロース上場 株式会社スリー・ディー・マトリックス(7777)

業務内容：自己組織化ペプチド技術を用いた医療製品の研究開発、製造及び販売
東京都千代田区。2005年設立の当社旗艦ファンドからの新規上場。

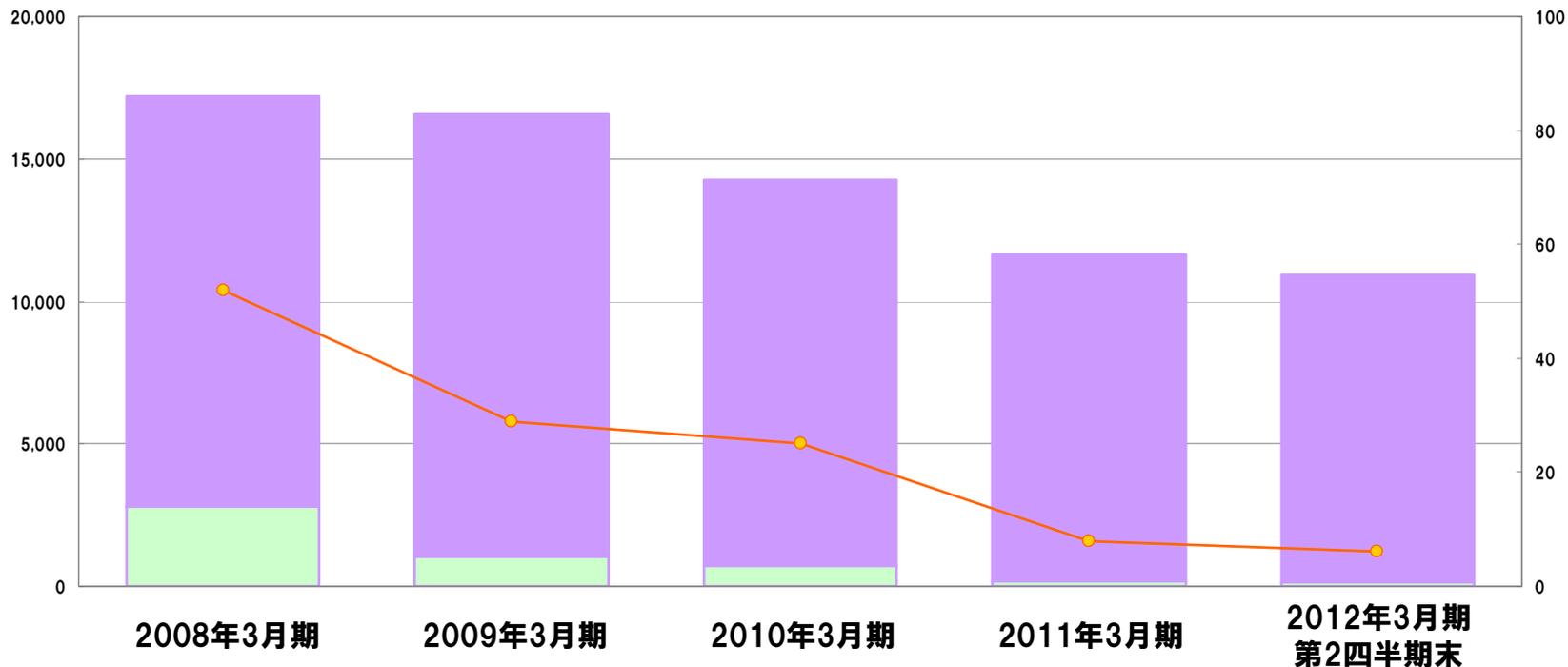
11月29日JASDAQスタンダード上場予定 ベルグアース株式会社(1383)

業務内容：野菜の接ぎ木苗の生産販売、農業資材等の仕入販売等
愛媛県宇和島市。株式会社ピーエスシーに続き、えひめベンチャーファンドから年内2社、累計3社目の新規上場。

5.1.投資金額・社数の推移

運用環境の悪化を受けて新規投資額が減少、2008年3月期をピークに投資残高は減少傾向

(単位:百万円)



単位:百万円

| | | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ■ 投資残高 | 17,186 | 16,591 | 14,274 | 11,670 | 10,908 |
| ■ うち、当期投資額 | 2,814 | 1,032 | 741 | 186 | 141 |
| ● 当期投資社数[右軸] | 52社 | 29社 | 25社 | 8社 | 6社 |

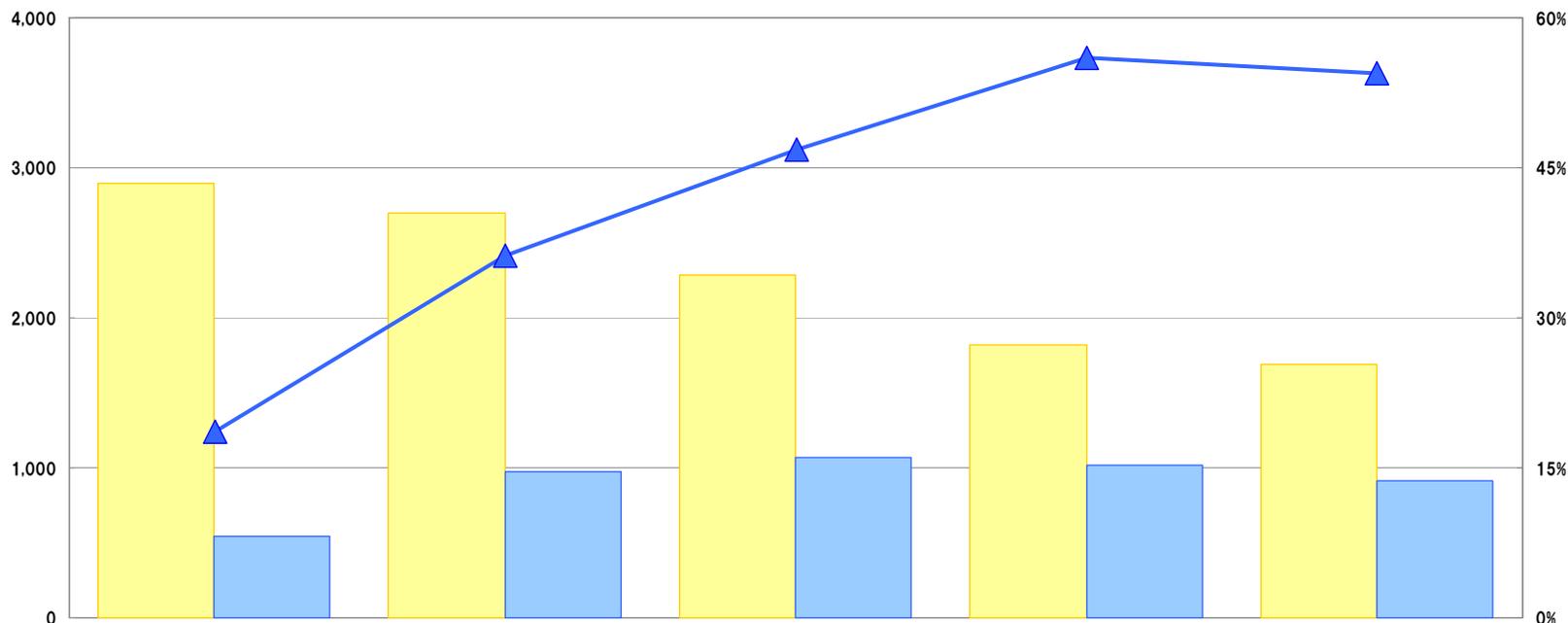
| | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|
| 1社当たり投資金額* | 54.1 | 35.6 | 29.6 | 23.4 | 23.6 |
|------------|------|------|------|------|------|

* 1社当たり投資金額 = 当期投資額 ÷ 当期投資社数

5.2. 営業投資有価証券と投資損失引当金の推移

投資損失引当金を過去に積み立てていた営業投資有価証券の売却により、引当率が微減

(単位:百万円)



単位:百万円

2008年3月期

2009年3月期

2010年3月期

2011年3月期

2012年3月期
第2四半期末

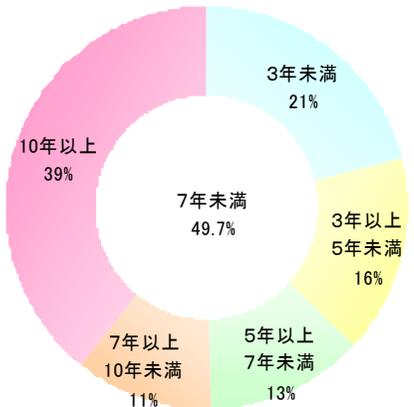
| | | | | | |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|
|  営業投資有価証券 | 2,900 | 2,700 | 2,282 | 1,821 | 1,686 |
| 引当金繰入額 (△戻入額) | 384 | 449 | 91 | △50 | △103 |
|  引当金残高 | 540 | 977 | 1,069 | 1,020 | 917 |
|  営業投資有価証券 に対する引当率 | 18.6% | 36.2% | 46.8% | 56.0% | 54.4% |

5.3.投資残高ポートフォリオ（2011年9月末現在）

投資残高金額 10,908百万円 投資残高社数 151社

(金額ベース)

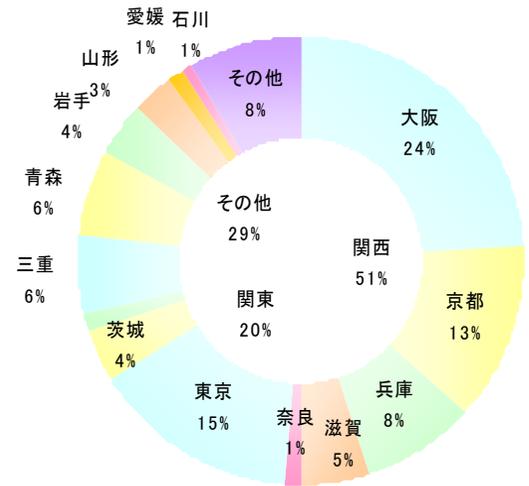
設立年別分類



※追加投資においても初回投資時点の設立経過年数で計算しております。

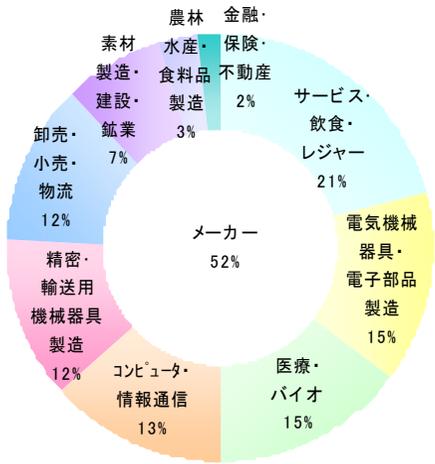
(金額ベース)

地域別分類



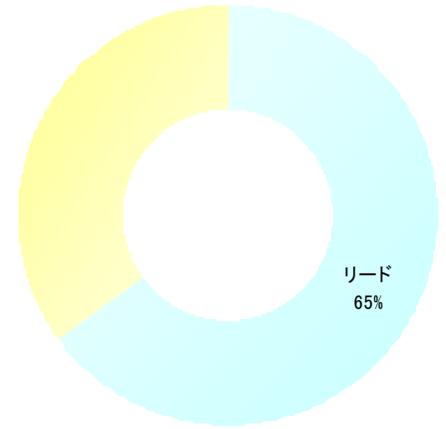
(金額ベース)

業種別分類



(社数ベース)

リードインベスターとして投資している案件



21社に非常勤役員を派遣しています。

【参考】 会社概要 (2011年9月末現在)

- 会社名 : フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)
- 設立年月日 : 1998年9月11日
- 資本金 : 2,048百万円
- 発行済株式総数 : 61,259株
- 株式公開市場 : 大阪証券取引所 JASDAQ市場 (8462)
- 所在地 : 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地
烏丸中央ビル4階
- 従業員数 : 29名
- 事業内容 : 未公開企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など